愛する女房と・・・

橋本和也

仕事をリタイアして家にいるようになったある日「これからは、ずーと家にいてよ。いままで子育てからやりくりまで私ひとりでやってきたんよ」と女房からご指示がでた。そういえば二人の息子のお産も出張中のことであった。入学式も卒業式も女房まかせ。いまはスーパーのはしごでもせっせと「アッシー」を務めている。唯一の別行動は『男の居場所』の会」の例会と催しに参加の折のみ。

「今晩なににする?」に「なんでもええわ」とやると、とたんにご機嫌が悪くなる。これからは、なににするぐらい言ってよ、(もういちいち私が考えるのはいや!)との思いなんだろう。「グラタンかシチュウ」と提案。「そん

な手間のかかるものはダメ！」で、湯豆腐にかつおのタタキなんてぇことと
なる。
　スーパーで支払いを済ませたあと、すぐに歩き出すとご機嫌をそこねる。
カード、レシート、財布などをバッグの所定の場所に収納する余裕がないと
いけない。「さっさ、さっさといかんといて」である。買い物には多少の忍耐
が必要で、なにしろ値段、期限、大きさ、重さ、見た目など多元的チェック
がはいる。まあ急がせず、焦らず傍観の一手である。
　忍耐力を双方が全く発揮しないのが趣味の「社交ダンス」である。学生時
代の競技ダンスのカップルが一緒になったのであるから気心は知れているは
ずだが、「音の取れない」男と「運動神経のまったくない」女の組み合わせで
あるからうまくいくはずがない。それでもかつては「ねんりんピック」や都
道府県対抗の「シニアクラス」に参加した。このところ体力的に相当きつく
「相手がわるい！」が高じてもめることが多い。「ほかに二人でやれることな

いの？」で、模索中であるが今更の感あり。妙案はない。
海外旅行も強行スケジュールで「疲れた！」が残るだけ。それではと「クルマでゆっくり日本一周」、にはめずらしく意見が一致した。
「電気自動車がええわ。格好のええの」。いまの２ドア・クーペのベンツはリッター七キロメートルなので、だめらしい。退職には少々間があったが「これやわ！」で「いつかはベンツ」を実現させた。人生を楽しむための先行投資であった。幸いまだＥＶ車でお気に召すものがないのと、いろいろな甲斐性もないので次のクルマは実現していない。
ところで、我が家にはちゃんとした車庫はない。「クルマに屋根をつける余裕なんてあらへんわ」ということになっている。雨ざらしである。「会社に乗っていってる頃はせっせと洗っていたのに最近はどしたん」のご指摘を聞き流し雨が洗い流してくれるに任せている。精神的にこうなるとそろそろ買い替えの時期ではあるのだが…。

あんなこんなの、いたって日常的な日々の連続であるが、先日経過観察でお世話になっている医師から、愛する女房の四度目のがん再発を告げられた。きゃしゃな体で三回の開腹手術に耐えてきたが「今度はもういやや」と少し弱気になっているのが気になる。

この冊子がでるころ、元気になった愛する女房と、今のクルマでいいから「全国一周。まずどこからいこうか」「どこでもええけど、暖かいところがええわ」。

三叉神経痛をもっている彼女の言いそうなやり取りのできることをひそかに楽しみにしている。